



2026年(令和8年)
 4月 第45号
 発行: 上島町自治研究会
 〒794-2506 越智郡上島町下町515
 Eメール: yukie.onishi@nifty.com
 編集者: 大西幸江
 自由参加型任意団体
 上島町自治研究会・会則抜粋

◆目的◆
 ①本会は上島町における住民自治機運を盛り上げることを目的とする。

◆活動◆
 ②住民自治に関心のある者の自由参加により活発な議論などを通じ、少子高齢化の進行に歯止めをかける方法を探求し、安心して暮らせる町作りに寄与する町民の自主活動を応援する。

③会は定期的に自治研究会を開催する。
 ※現在のところ毎月第4土曜日、14時から下町515番地「やよみ亭」にて開催。

◆入会/退会◆
 ④入退会には、特に条件を定めない。



弓削小学校への統合問題で揺れる岩城小学校

“今どうなった？”が止まらない議会ウォッチ

―半日かけて視聴、理解より疑問が増えました―

3週間ほど入院している間に、尾道市議会をテレビで見える機会がありました。議題の意味が少しわからないまま見ていた議会でも、おもしろく感じました。

そして先日、久しぶりに上島町の議会放送を見ました。それも用事をしながらなので、半日かけて見ました。見終わって、何かモヤモヤが残りました。半日かけて見たのに、おもしろくない！

これまで傍聴に行って「おもしろくない！」という感情を持ったことはありませんでした。

なぜそう感じたのか、私なりに理由を考えてみました。

議場全員の言葉の使い方や発表のやり方、議会全体の流れがわかりにくいと感じました。見ているほうは資料もないのですから、もっとわかりやすく話したり、わかりやすい進行や流れを作ってもらわないと、テレビでは理解しにくいところがあります。

議会の進行にも、メリハリがないように思いました。「今、どうなったん？」と思うところもありました。

町民が切に願っている案件について「望みます」とか「お考え下さい」とか…。ゆるくないですか？

(岩城 山本 曜子)

あなたの「賑々、当選した議員は満足のいく活動をしていますか？

請願を退けた上島町議会 ―住民の声はなぜ届かない―

学校統廃合をめぐる判断と議会の役割

先日行われた3月議会で、学校統廃合に関する請願が二つ提出されました。

一つは、かつての生名中学校統合の際と同様に「上島町学校教育問題審議会条例」に基づいて審議会を開催してほしいというもの。もう一つは、学校の在り方検討委員会の提言書にある「魚島は小中一貫校として存続する」という記述を話し合っていないし、そもそも小中一貫校ではないので削除してほしいというものでした。

しかし、上島町議会はいずれの請願も採択しませんでした。この結果に、疑問を抱かざるを得ません。

そもそも請願とは、住民の切実な願いです。実現できるかどうかは別として、議会はその声を受け止め、後押しするものだとして理解していません。今回の二つの請願は、その観点から見て、十分に検討され、賛成されてもおかしくない内容だったのではないのでしょうか。

いやいや、町民は困っているから議員に託しているんです。議会に託してほしと思うのは、私だけでしょうか？

今回はテレビなので、何回か同じ場面を見て理解しようとしてきました。改善できるなら、わかりやすい議会、わかりやすい流れを作ってもらいたい。できるなら、よその議会のように資料も事前に提供してほしいと思います。

私たち町民は、町民の代表になってもらえると思って議員を選んでいるのだと思います。町民の代表として活躍してもらおう。町民を見守り、町民の安心な生活に気配りをしてもらおう。

皆が食い入るように見るような議会を、楽しみにしています。

して問題ではありません。多くの声を聞き、修正を重ねながらより良い形を目指していくところが、民主主義であり、行政の役割だと思えます。

また、今回の請願は議会だけでなく、教育長や教育委員会にも送られています。住民の声を自主的に反映させることで、解決に近づく問題でもあるはずですよ。

議会とは、本来、議員と行政が一堂に会し、町の進むべき道を考える場です。それにもかかわらず、今回のような状況を見ると、その機能が十分に果たされているのか疑問を感じます。このままでは、上島町の将来に不安を覚えざるを得ません。

この状況を変え、正していけるのは、私たち住民です。皆さんが応援してきた議員や町長に対し、ぜひ声を届け、行動を促していきたいと思います。

(岩城 大西幸江)

議員必携を読む 5

ぎいんひつぱい
 順序を乱しますが、住民自治の根幹に関わる事態を受け、第三編 議会審議の実際／第四章 請願・陳情の審査より、今回は「請願」を取り上げたいと思います。

請願とは、国や地方公共団体に対し、その事務に関する事項について一定の措置を求める行為です。日本国憲法第16条に規定された基本的な人権の一つであり、国籍・年齢を問わず(未成年・外国人も)行使でき、提出による不当な差別は禁止されています。

請願は、自治体への「直接提出」のほか、議員の紹介により「議会へ提出」することもできます。後者は「住民自治の立場から、住民の代表機関である議会に、請願を通して住民の意思を反映させ」その『実現に努めさせる』仕組みです。2月27日付で私はこの両方の方法で請願を提出しました。

議会における請願の審査は、『請願が住民から提出される具体の要望であるという特殊性から、慎重を期するため』委員会への付託が原則とされています。例外として『急を要するもの』や『結論が明白で議会全体に異論がないとみられる』ものは、委員会付託を省略して本会議で審議することができます。

今回、学校統廃合に関する請願第1号・第2号は、委員会付託を省略して本会議で審議され、賛成3、反対8で不採択となりました。

教育委員会へ直接提出した請願は、事務局は教育委員へ配布せず知らせせず、教育委員会定例会も総合教育会議も一切触れませんでした。

学校統廃合の検討の進め方の根拠を問う請願を、内容の丁寧な検証もなく進める議会、なかつたことにする教育委員会、この町の住民の声を扱いに大きな疑問が残ります。

(ローカルモクラシー研究所代表 壬生優子)



壬生優子

免許を返したくても返せない

— 高齢者支える交通網に課題 —

過日、上島町で悲惨な事故があった。意識を失い、駐車中の2台の車に突っ込み、止まった。運転手は、救急搬送され、重傷、入院後、退院できたが、車椅子の生活を余儀なくされた。

被害は車両だけで、人的に被害がなかったのが不幸中の幸いだ。ドライバーは90歳前後の高齢。普段から低速運転で、これもよし、これ以上のスピードが出ていれば凄惨な光景だったに違いない。

公共交通の貧弱な上島町で車は必須だ。車を持たない人は家族や親戚、知合い、友人に車の所有者がいないと、移動に時間を取られて、生活の質が下がる。筆者のように大根足で自転車漕げる者であれば、車よりも時間は倍以上かかりはするが、生活は事足りる。

しかし、特に75歳以上の後期高齢者になると、小生の母親をはじめ、おじや、おば、知り合いの年配の方々に話を伺うと、体もしんどくなり、都会のように電車やバス、タクシーが充実していたら、運転免許証を返納したいと言う。

なぜこんなエラーがおきたのか

— とかげの尻尾切りではすまされぬ —

午で明けた令和8年、1月いぬる2月逃げる3月去る。旧くから聞きたれた言葉です。

私の若い日々は、寒さ厳しい南氷洋捕鯨で来る日も来る日もこの言葉を信じ鯨との戦いでした。

わが町も間もなく令和7年度が終え、潮湯の廃止、立石優待券廃止、家老渡フェリー運行？ 廃止？ 学校統廃合？ デマンド交通と公共交通通変更？ の有り様です。そして因島総合病院が医師会病院と統合。因島病院には一世紀以上も地域の医療に貢献したことに感謝とありがとうです。

ところが医師会病院までの交通の便は？ 等々新年度への宿題山積のところ、突如岩城の廃棄物処分



航路廃止に揺れ、存続が決まった家老渡フェリー

今回の事故の責任の一端は、上島行政の公共交通施策にある。

本件のような事故が超高齢化社会の上島町で発生する事は、予見できたはずだ。皆様ご存知の通り、池袋でも高齢者が悲惨な事故を起こしたニュース等を見聞きして、高齢者の免許返納が大問題になった。

上島町でも約9年前に民間のこまなん自動車をはじめ、それに遅れること8年後の昨年ようやく「チヨイソコゆめしま」が鳴り物入りで始まった。

しかし、蓋を開けてみると長い時間かけて検討されたにも関わらず、利用者第一では無い使えないサービスに落胆した。

はじめに上弓削から立石港に行くのに、下弓削港で車からバスに乗り換えなければ、ダメ。

次に運行日時、平日で9時〜12時と13時〜16時。土日と祝日、年末年始等は運休！ 誰のための移動サービス？

昼休み等、ドライバーや役場職員のためのもの？ 早急に公共交通再構築を！

(弓削 亀島文志郎)

場問題が浮上。3月4日の定例議会では傍聴席は満席、民放テレビも一合入っていました。

冒頭町長による岩城の廃棄物問題での陳謝がありました、個人的には行政側に座る職員も起立して頭を下げて欲しいとの思いでした。

島外搬出費用は5億円近い高額との説明に驚きました。行政管理で町民が無断で搬出した廃棄物では無いと思います。町長の「私は報告を受けていなかった」発言は非常に残念だと思ふのは私一人でしょうか。日ごろ職員との意志疎通は？ と思ふところ。日頃町民に対し、厳しい財源をご理解下さい、にしては情けないエラーです。

町は10年かけて島外に搬出するとの事ですが、島外に搬出するので高額になります。核の廃棄物ではありません。リサイクルできる物はゴミではありません。仕分け分別をし、量を減らし、最終処分の廃棄物のみ島外に搬出するという事は出来ないのでしょうか。

いっぽう町内には崩壊寸前の空き家も目立ちます。しばしば空き家の解体を見かけますが、町内業者ではありません。上島町のゴミは上島町で解決することが出来ないものでしょうか。この問題を契機に、上島町のゴミ問題を考える一歩にしましょう。

(弓削 濱村 壽)

これで衰退する地域を救えるのか？

— 町民分断を招きかねない学校統廃合の方法論 —

いまわが町は町立学校の統廃合問題で揺れている。

去る2月10日、弓削地区で「上島町学校適正配置基本計画」の住民説明会が開催され100名近い参加者に小中学校統廃合の骨子案が示された。そこで驚くべき質問があった。

「骨子案が教育委員会名で示されているが教育委員である私にはこの内容は知らされていない」。それに対し「これは事務局案だ」との弁明がなされた。え、そんな手続ありか？

公立校の統廃合については過去生名中学校が弓削中学校に統合された経緯があり、その統合を進める根拠は平成18年4月20日施行の条例第33号「上島町教育問題審議会条例」であった。第1条として上島町の学校教育に関する諸問題について検討し学校教育の充実に資するため審議会を置く、とあり、以下任務や組織、人選、運営等につき定められている。

自治体における条例は国で言えば法律にあたる。ところが今般の学校統廃合については、令和3年9

(弓削 平山和昭)

「難しい」で終わらせないで

— 住民に真摯に向き合えない行政に疑問 —

第2回上島町学校適正配置基本計画説明会に参加しました。会では、まだ発言したい人がいたのに、途中で打ち切られました。

私も、岩城小学校卒業生として意見を言わせていただきたいです。

まず、それぞれの島には特性があります。弓削や生名、魚島の子どもたちと課外授業で係わった際、同じ上島町の子どもでも学校ごとに性格の傾向は異なっていました。学校が統合されることで人間関係はより複雑になり、子どもにとって負荷の大きいものになると考えます。小学生から意見を聞くことは難しいかもしれませんが、当事者である子どもたちの声を「難しい」で諦めず、聞いていただきたいです。

私は中学高校と島外に通っていたため、通学時間の長い生活を送っていました。通学時間が長いことは、学習や睡眠、部活動の時間を削

り、学生生活において不利な状況を生みます。休日も部活動で登校が必要になります。町有バスは、日曜日は休み、土曜日も便数は少なく、乗り継ぎも良いとは言えません。毎日往復で時間を費やすことの負担をどのように考えているのでしょうか。

また、負担は子どもだけでなく保護者にも及びます。部活動後、徒歩で帰れない生徒を迎えに来ていたのは保護者でした。統廃合によりその負担はさらに大きくなります。子どもたちの健やかな成長と保護者の負担軽減のためにも、通学方法については再検討が必要ではないでしょうか。

今回の説明会は、話し合いを行っただけという事実づくりのように感じられました。住民と真摯に向き合う気持ちがあるのか、疑問を抱いています。

(岩城 大西莉乃)

投稿記事募集

上島町自治研究会では、皆さんの投稿記事を募集しています。
次号テーマ：なし
文字数：800字程度
締め切り：毎月の第2日曜日
記名原稿をお願いします。原稿は世話人に手渡し、もしくはメール(yukie.onishi@nifty.com)をお願いします。分量に関しては、趣旨の変わらない範囲で手を入れさせていただきます。

カンパ募集

ワトソン発行費用捻出のため、皆さんのカンパを募集しています。活動に賛同いただける方、応援したいと思っていただける方、いくらからでも結構です。世話人までご連絡ください。
世話人：濱村寿・平山和昭
大西幸江他
カンパいただいた方、ありがとうございました。